

執筆担当：親泊素子

はじめに

日本の国立公園は主に公園地域の特徴をとらえた名称が使われており、公園面積を拡張したり、公園の再編がなされたりすることで名称変更が行われてきた。それでは他国の国立公園の名称はどうであろうか。かつて欧米の植民地であったアジア、アフリカの国々は宗主国の主導で国立公園が設置されてきたケースが多いため、その地を統治していた人物や本国の君主の名前等がつけられた。従って、これらの植民地は独立すると国立公園の名称変更を行っている。例えば、マレーシアのタマンネガラ国立公園は英国のジョージ五世を記念してつくられた国立公園だが、マレーシアの独立と同時にタマンネガラ国立公園に変更された。タマンネガラはマレー語で「国立公

園」と言う意味なので、国立公園の名前が重複するが、タマンネガラはこの公園の固有名詞として用いられている。また、フィリピン最初の国立公園はセオドア・ルーズベルトJr国立公園だったが、現在ではアラヤット山国立公園をフィリピン最初の国立公園と位置付け、ルーズベルト公園は国立公園から景観保護地域に格下げされている。また、インド最初の国立公園となったヘイリー国立公園は、英領インドの統一州知事だったウィリアム・M・ヘイリーの名前からとったものだが、インド独立後にラムガンガ川にちなんだラムガンガ国立公園に名称変更された。後にヘイリー国立公園の設立に貢献したジム・コーベットに敬意を表し、コーベット国立公園に変更された。しかし、近年になって、再びラムガンガ国立公園への復活を望む声があがっている。アフリ

カ初の国立公園となったコンゴ民主共和国のヴィルンガ国立公園もベルギー植民地時代にはアルバート国立公園という名称だったが、後に名称変更されている。こうして、アジア、アフリカの植民地だった国々の国立公園名称には欧米支配の影響が色濃くでている。

アメリカの「地名調整法」

(The Reconciliation in Place Names Act)

同様に最近のアメリカでは連邦政府所有の森林、公園等の名称変更の動きがでて、これは二〇一五年に連邦政府所有の土地に人種差別を示唆する名称が一、四四一カ所あることが判明し、その名称変更を望む声が高まってきたからである。また、二〇二〇年五月二五日に白人警官によって死亡したジョージ・フロイド殺害事件の後に起こった「Black Lives Matter」の抗議運動がきっかけとなり、六月にはワシントンDCの国立公園局が管理する敷地内で、南部連合のアルバート・バイク將軍の銅像が抗議活動参加者らによって引き倒された。また、ニューヨークの自然史博物館に設置されていた第二六代大統領セオドア・ルーズベ

ルトの騎馬像も黒人と先住民の描写が問題として撤去された。こうして、アメリカでは記念碑、公園、その他の公有地にある人種差別にかかわりのある彫像等が次々に撤去されたが、今度はその動きが土地の名称見直しにまで及んでいるのである。

フロイド事件が起こった同じ年の九月二五日に、デブラ・ハラーン民主党下院議員が「地名調整法案」を提出した、それは、国立公園、国有林、自然保護区、記念碑等の場所が使われている差別的な名前を見直しと、それらをアメリカ地名委員会に助言する委員会の設置を求める法案で、アメリカが「ベストアイデア」と誇る国



第7代大統領のアンドリュー・ジャクソン銅像も人種差別の抗議運動で倒されそうになった

立公園内に白人至上主義を示唆し、黒人や先住民に対する人種差別的な名称があることを指摘したものであった。

「言葉は記念碑である」

(Words are Monuments)

翌年の二〇二二年七月にはエド・マーキー、エリザベス・ウォーレン民主党上院議員並びにアル・グリーン下院議員等によって「地名調整法」が再提出された。続いて二〇二二年四月にはボニー・Mマッギール等自然保護研究者六人による「言葉は記念碑である」という論文が「人と自然(People and Nature) ジャーナ」に発表され、アメリカ国立公園内の地名の多くに白人至上主義を含む入植者の植民地時代の神話を永続させる名称が多くみられたことを報告した。彼らはアメリカの国立公園六二カ所のうち代表的な国立公園一六カ所を選び、その中の二、二四一カ所以上の地名の由来を調べ、すべての国立公園に人種差別主義、反先住民思想をもつ人々、或いは先住民の大量虐殺や抑圧してきた人々にちなんでつけられた場所や施設が少なくとも

一カ所はあることを明らかにした。その中には一八七一年にイエローストーン地域への調査隊を率いた地質学者のフェルディナンド・ハイデンにちなんでつけられたイエローストーン国立公園のハイデンバレーも含まれている。ハイデンは「先住民は最終的に絶滅させられなければならない」という意見をもっていた。こうした名称の分析結果をみると、アメリカの国立公園のいわば先住民に対する暴力の歴史が浮かびあがってくる。



イエローストーン国立公園内でも地名の見直しが行われている
写真提供：油井正昭

地名調査に関する 諮問委員会の会議開催

ちなみにアメリカの国立公園を

管理する内務省は二〇二二年一月に地名調整に関する諮問委員会の第一回公開会議を開催した。この委員会は差別用語や軽蔑的と思われる連邦政府所有の土地の名称や地理的特徴名を特定し、それに代わる適切な名称をアメリカ地名委員会に提案することを任務とする委員会である。こうした動きが加速している背景には内務長官の強いリーダーシップがあるが、何とバイデン政権下における現在の内務省の長はデブラ・ハーランド氏で、彼女こそが下院議員時代に「地名調整法案」を提出した人物だったのである。彼女はプエブロ族出身で、先住民として初の内閣官房長官を務め、また、閣僚経験者としては二人目の先住民である。バイデン政権下では多様性を重視した人材配置を心がけており、まさにこの配置がハマったというわけである。こうして、アメリカでは既にいくつもの公園内の名称変更が行われ、さらに多くの場所の見直しが続いている。

おわりに

アメリカの国立公園制度は世界

初の理想的な公園モデルとして各国がその導入を目指してきた。しかし、狭い国土に多くの人口を有する日本ではアメリカ型の国立公園を設立することが難しいとの判断から、地域制を採用し、地元住民との共生を模索しながら国立公園の管理を行ってきた。現在起きているアメリカの名称変更の裏側にある負の歴史をみていると、地域制の公園制度を採用した日本で、何とか保護と利用の両立を目指すそうと苦勞してきた日本の公園管理者に拍手を送りたくなる。

参考文献

1. US NPS (gov.) Office of Policy. <http://www.nps.gov/orgs/1892/Reconciliation-in-Place-Names-Committee>
2. McGill, Bonnie M et al. "Words are Monuments." *In People and Nature* 2022. 4-683-700. <https://besjournals.onlinelibrary.wiley.com/doi/full/10.1002/pan.3.10302>
3. Home page: Senator Edward Markey of Massachusetts July 16, 2021. <https://www.markey.senate.gov>.

親泊 素子 ● おやどり もとこ

米ウイスコンシン大学大学院博士課程修了。国立公園協会研究センター長等を経て、一九九八年江戸川大学教授。二〇一七年から江戸川大学国立公園研究所客員教授。環境政治学専攻。